

## アンカリング - 禁止行為 (ルール解説)

### はじめに

パット時のアンカリング (anchoring) を禁止するルールが 2016 年から採用されることになったが、この新しいゴルフルールで言うアンカリングとは クラブ または クラブを握る手を体に付けて ストロークの基点を作ってパットをすることである。

### ルール違反のアンカリングの例

R&A と USGA は以下の (1) (2) (3) (4) のようなパターの使い方を 所謂 アンカリング (ストロークの基点を作る方法) を用いたパッティング・スタイルとして 禁止の対象に挙げている。

#### 禁止される パッティング・スタイル



(1) クラブ または クラブを握る手を 体に直接固定する、もしくは、(2) 前腕を体に付けて間接的な基点 (anchor point) を作る という方法を用いたストロークを禁止し、当該ルールに違反した場合は ストローク・プレーであれば 2 打罰、マッチ・プレーでは そのホールを負けを ペナルティとして科すものである。

(写真は R&A ウェブサイトより 抜粋)

### 違反はパターの長さではない

このルール変更で 中尺・長尺パターが使えなくなると思っている人が 少なくないようだが、実は必ずしも そうではない。長尺パターでも腕とグリップ・エンドのどちらも 体から離れていれば 2016 年以降の新ルールでも 違反に該当しないのである。一方、短いパターでもグリップを 腿、即ち、体に押し付けるようにして固定させ、それを 基点に ストロークをする形になれば 新ルールに違反するスタイルになると言うことだ。

## ルール違反でないスタイルの例

もちろん、下の (7) のような標準的なパッティング・スタイルは 左右どちらの手が上であろうが問題のないスタイルである。また、(8) (9) のように パターを腕に固定しても その腕が体に密着するようにして固定されなければ（腕に固定するような形でも）問題ないし、(10) のようにグリップ・エンドを基点にするような 所謂 クロー・グリップも そのグリップ・エンドを握っている腕が体に密着して固定されなければ 問題ない訳だ。

### 許される パッティング・スタイル（参考例）



以上が 2016 年から禁止される見通しのパッティング・スタイルに関する要点の説明である。おそらく、これで長尺パターを使う人は居なくなるだろうが、中尺パターに関しては（うっかり、違反をし易い形状だから）どうなるか 予測し難い状況だ。いずれにせよ、このルール変更の経緯についての詳細に 興味のある方は R&A/USGA 2013 年 5 月 21 日発表の日本語版に 詳しく記載されているので 該当ページの説明を ご覧下さい。